

風力発電の適地について

風力エネルギーを活用する上では少しでも風の強いところを選ぶことが重要であり、かつ、風速分布や風向分布が重要な因子となるため、四季を通じた1年以上の風況データの収集が必要となる。

風力発電導入ガイドブック（2008、NEDO）によると、「風力発電導入の検討に当っては、まず良好な風況が期待される有望地域を抽出し、その地域の既存の風況データ、自然条件および社会条件の調査を行うことにより、設置候補地点の選定と風車導入規模を設定する」こととされている。有望地域の抽出については、以下のとおりであり、参考として、関東・中部及び名古屋市周辺の風況図を示す。

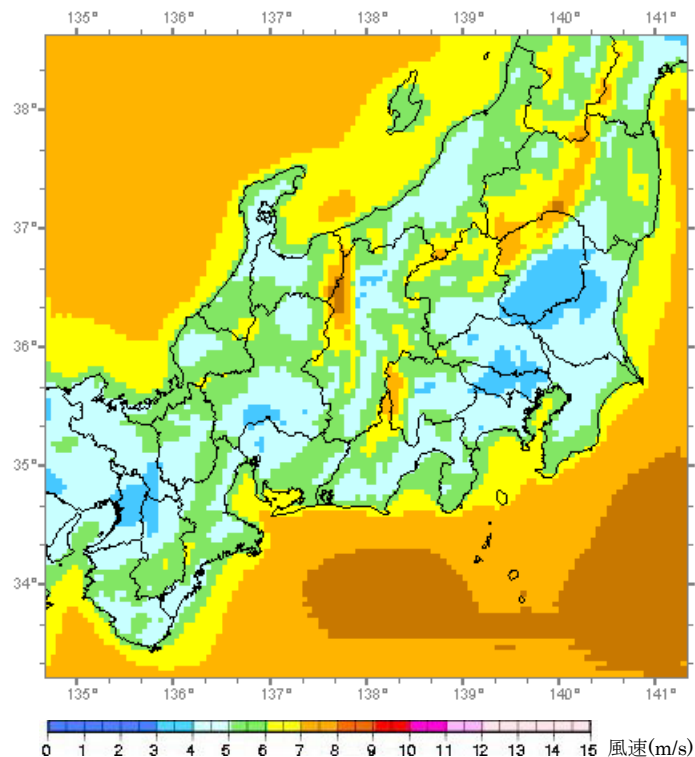
(1) 有望地域の抽出

有望地域の抽出には、局所風況マップや気象庁等の風況データを活用する。

局所風況マップ（地上高 30m）においては、年平均風速が 5 m/s 以上、できれば 6 m/s 以上の地域を対象とし、その占有面積が大きな地域、あるいは風速階級の高い地域が密集している地域を抽出する。

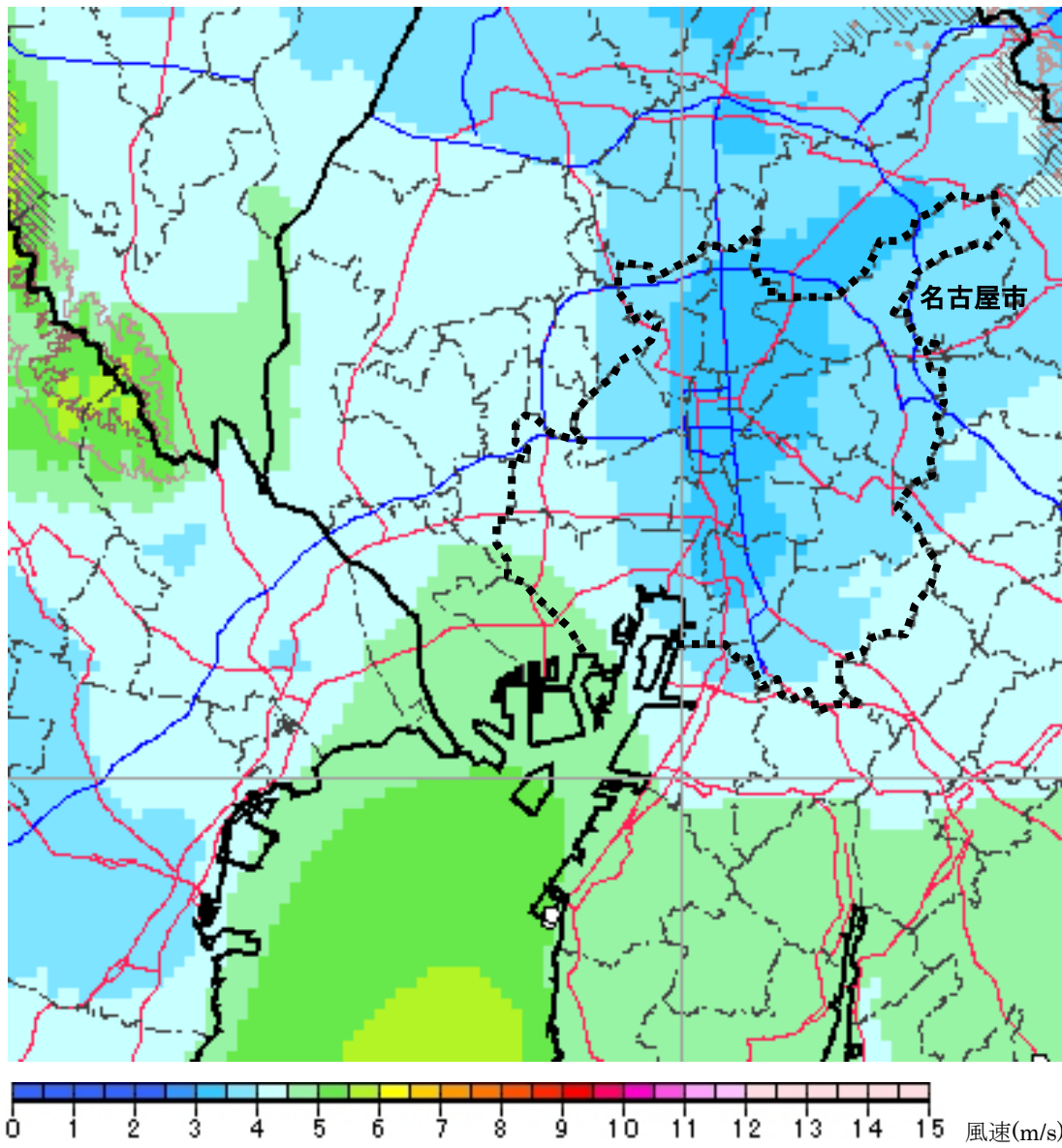
気象庁等の観測所の風況データにおいては、観測高度や観測地点の立地状況にもよるが、観測高度も低いことから年平均風速として 4 m/s 以上あることが望ましい。

出典：風力発電導入ガイドブック（2008、NEDO）



出典：NEDO ホームページ

図 局所風況マップ（関東・中部、地上 30m）



出典：NEDO ホームページ

図 局所風況マップ（名古屋市周辺、地上 30m）